

《技術報告》

^{99m}Tc -GSA 肝摂取率の精度を高める方法の開発

野口 敦司* 長谷川義尚* 橋詰 輝己* 井深啓次郎*
若杉 茂俊* 松永 隆** 井上 敦雄** 佐々木 洋***

* 大阪府立成人病センター核医学診療科
** 同 消化器内科
*** 同 外科

要旨 ^{99m}Tc -GSA 肝摂取率の精度を高める目的で、肝臓自体および体壁による放射線の減衰をファントムを用いて測定し、容積および体壁厚補正肝摂取率 (LU15VW) を算出した。慢性持続性肝炎 5 例、慢性活動性肝炎 (2A) 25 例、慢性活動性肝炎 (2B) 8 例、肝硬変 8 例、肝細胞癌 20 例を対象として、LU15VW と他の肝機能指標を比較した。LU15VW は LU15, LHL15 および HH15 と良好な相関を示し ($r = 0.912, 0.864$ および -0.869)、さらに、LU15VW と ICGR15, 血清アルブミン, 血小板数およびヘパラスチンテストとの相関 ($r = -0.800, 0.684, 0.599$ および 0.465) は、LU15, LHL15 および HH15 とそれらとの相関よりも良好であった。また、LU15VW は慢性活動性肝炎 2A, 同じく 2B および肝硬変の各群の間で平均値の有意の差を認め、LU15VW は ^{99m}Tc -GSA 肝摂取率の肝機能指標としての精度を高める上で有用と考えた。

(核医学 36: 375-382, 1999)